

## 2014 年度「日本人の国際移動研究会」の活動報告

——ミニ・シンポジウムの開催にあたって——

河原典史

2004 年の発足以来、「日本人の国際移動研究会」は、ほぼ毎月、研究報告会を行ってきた。同時に、学外研究資金の獲得も積極的に行ない、基盤研究 (A) (一般) 平成 18～21 年度「環太平洋地域における日本人の国際移動に関する学際的研究」(研究代表者：米山裕) に続いて、平成 25～29 年度基盤研究 (A) (1)「環太平洋における在外日本人の移動と生業」(研究代表者：米山裕) が採択された。この科研の 2 年目にあたる 2014 年度には、メンバーの報告だけにとどまらず、移住・移民に関して活発な発信をしている研究者をゲストに迎え、さまざまな研究対象・方法や事例研究を学ぶ機会を得た。これらの報告会はミニ・シンポジウムと位置づけられ、各回にそれぞれのテーマが定められ、合計 3 回実施された。例えば、筆者(河原)がコーディネータを務めた第 3 回はテーマを「1930 年代における日本人漁業者の国際移動」とし、1930 年代における日本国家の勢力圏・非勢力圏における漁業活動の差異について、当時の日本人漁業者をめぐる活動をグローバルな視点から再検討した。ミニ・シンポジウムの概要は、以下の通りである(所属については発表時のもの)。

第 1 回：「『ひと』の地理的拡散をいかに有機的に捉えるかー近現代華僑の歴史実証研究よりー」

日 時：2014 年 7 月 19 日 (土) 14:00～18:00

場 所：京都私学会館 204 号室

コーディネータ：園田節子(兵庫県立大学教授)

発表者：宋 伍強(広東外語外貿大学准教授)「戦後朝鮮華僑をめぐる環境の変化と生業(1945～2010)」

帆刈浩之(沖縄県教育庁嘱託研究員)「近代広東系華僑のグローバル化：ビジネス・慈善・医療」

第 2 回：「イギリス帝国と移民ー太平洋を中心にー」

日 時：2014 年 11 月 15 日 (土) 14:00～18:00

場 所：キャンパスプラザ京都 6 階・第 1 講習会室

コーディネータ：酒井一臣(京都橘大学助教)

発表者：津田博司(筑波大学助教)「カナダ史における移民動態の変遷と多文化主義の成立」  
藤川隆男(大阪大学教授)「『南の虹のルーシー』から移民博物館へー2 世紀にわたるオーストラリアへの移民の構造と変遷ー」

第3回「1930年代における日本人漁業者の国際移動」(地域漁業学会近畿部会との共催)

日時：2014年12月21日(日)13:00～17:00

場所：キャンパスプラザ京都5階・第1演習室

コーディネータ：河原典史(立命館大学教授)

発表者：小川真和子(立命館大学准教授)「国家と漁船－1930年代～1940年代のハワイならびにアメリカ西海岸におけるアメリカ合衆国の漁業政策について－」

福田忠弘(鹿児島県立短期大学准教授)「南洋漁場開拓者・原耕の業績とその影響」

それぞれの報告については、以下の要旨を参照いただきたい。いずれにせよ、「日本人の国際移動研究会」をめぐる研究者のネットワークの広がりや、研究の深化について記録しておきたい。